

第3学年音楽科学習指導案

北島北小学校
3年2組 30名
指導者 人見 稔子

1 題材 せんりつの特徴をかんじとって演奏しよう

2 題材の目標

- (1) 音の上がり下がりやフレーズなどの旋律の特徴、拍子や強弱と曲想との関わりに気付き、それらを生かすために必要な表現の技能を身に付ける。
- (2) 旋律の特徴を生かした演奏の仕方、思いや意図をもって曲の特徴を捉えた表現を工夫する。
- (3) 旋律の特徴を生かした表現を工夫しながら、友達と協働して表現する学習に進んで取り組む。

3 教材 鑑賞・器楽教材 笛星人 北村 俊彦 作曲
鑑賞教材 メヌエット ベートーベン 作曲
歌唱教材 とどけよう このゆめを 安西 薫 作詞 長谷部 匡俊 作曲

4 題材について

(1) 児童の実態

本学級の児童は、明るく元気で何事にも一生懸命に取り組むことができる。音楽の授業では、感染防止対策として歌唱や器楽の学習が制限されているが、毎回音楽の授業をととても楽しみにしている。「小鳥のために」というリコーダーの曲を鑑賞した時は、興味をもって聴いていた。この曲は、リコーダーでスズメや森ヒバリ、ムクドリなどの鳴き声を表現した3つの演奏曲で構成されている。その3つの曲を聴き比べ、鳴き声の違いに耳を傾けて聴くことができていた。

また、3年生になって初めて学習した「友だち」や「春の小川」の歌をととても楽しそうに歌っていた。しかし、一生懸命に声を出して歌っているが、どの曲も終始同じように歌うことに、演奏表現の技能について課題を感じた。

そこで、本題材では旋律の特徴に興味をもって体全体で感じ取りながら、思いや意図を演奏に生かせるような音楽学習を進めていきたい。

(2) 教材について

本題材で扱う鑑賞・器楽教材「笛星人」は、「シ」の1音だけで作曲されている。「シ」の繰り返しだけであるが、たった1音でも表現を十分に考えられて楽しく演奏することができる曲である。初めてリコーダーを学習する3年生に適した曲である。「笛星人」は、同じく「シ」の音だけで作られた「ちょっとまってね」と「しっぱれー！」の2曲で構成されており、曲想の違いを感じ取りやすい。始めと終わりの部分（「しっぱれー！」）は大変歯切れのよいリズムと速いテンポで、中の部分（「ちょっとまってね」）はゆっくり滑らかな曲調である。

「メヌエット」は、主な旋律が単一楽器（バイオリン1）で演奏されているため、音色に気をつけて聴くことにより、旋律の動きに着目しやすい。滑らかで優雅な感じを醸し出すアの旋律と、短い音が軽やかに弾むリズムが跳躍的な感じを醸し出すイの旋律の対比により、旋律の特徴や、曲想の変化を感じ取りやすい。ア→イ→アの3つの部分からできている曲の構成（三部形式）に着目することにより、児童が曲のよさや美しさに気付き、今後の表現活動にもつなげることができる。

「とどけよう このゆめを」は、前半はリズムカルに、後半は流れるような演奏になるように構成されており、曲想の違いを感じ取りやすい。前半は旋律の3、4、5度といった大きな跳躍進行により、弾んだ感じを受けやすい。逆に後半の旋律はほとんどが順次進行であるため、滑らかな感じを受ける。歌詞の内容は爽やかな感じで中音域の音が多いため歌いやすく、児童には4拍子の拍感を生かして明るい声で歌わせた

(3) 指導にあたって

鑑賞教材「笛星人」と「メヌエット」の鑑賞を通して、児童に旋律の特徴や曲想の変化を感じ取らせたい。そして、第三次の「とどけよう このゆめを」の歌唱では、

第一次と第二次での学習を生かしながら、旋律の特徴や曲想の変化を生かした表現を工夫し、学級で話し合いながら思いや意図にあった演奏ができるように支援していきたい。

5 学習指導要領との関連

A 歌唱

- ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつこと。
- イ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付くこと。
- ウ 思いや意図に合った表現をするために必要な次の(イ)の技能を身に付けること。
(イ) 呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能

6 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ① 旋律の特徴や拍と曲想との関わりに気付いている。(知識) ② 思いや意図に合った表現をするために必要な、音色や響きに気を付けて、呼吸や発音の仕方に気を付けて歌う技能を身に付けて歌っている。(技能) 	<ul style="list-style-type: none"> ① 旋律の特徴や歌詞の内容、強弱の変化などと曲想との関わりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 楽器の音色や響きと曲想との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

7 指導と評価の計画（本時5/7時間）

次	時	教材	◎ねらい ●学習内容 ・学習活動	評価（◆評価方法）			要素
				知・技	思	態	
第一次	①	笛星人	◎旋律の特徴を感じ取って聴き、曲想にあった演奏の仕方に気付く。 ●旋律の特徴を感じ取って聴く。 ・旋律に気を付けながら曲想を感じ取って聴く。 ・旋律について感じたことや気付いたことを発表する。 ・曲想にあった演奏の仕方での練習をする。	知 ① ◆ 発言			
	②		●リコーダーの演奏を聴き合う。 ・グループに分かれて演奏を発表して、お互いに聴き合う。 ・全員でリコーダー演奏を楽しむ。				
第二次	③	メヌエット	◎旋律の特徴を感じ取って聴き、バイオリンの音色や曲全体を味わって聴く。 ●旋律の特徴を感じ取って聴く。 ・音楽に合わせて体や手を動かしながら、アの旋律を聴く。 ・アの旋律について、感じたことや気付いたことを発表する。 ・音楽に合わせて体や手を動かしながら、イの旋律を聴く。 ・イの旋律について、感じたことや気付いたことを発表する。				旋律拍
	④		●バイオリンの音色や曲全体を味わって聴く。 ・旋律に気を付けながら、曲想を感じ取って聴く。 ・体を動かしながら、曲全体を聴く。 ・バイオリンについて知る。 ・音楽を聴いて楽しかったこと、面白かったことを発表する。				
			◎旋律の特徴や拍と曲想との関わりを感じ取りながら、思いや意図に合った演奏を工夫する。				

第三次	⑤ (本時)	とどげよう	<ul style="list-style-type: none"> ●曲想をつかみ、旋律の特徴や拍と曲想との関わりに気付く。 ・指導用 CD を聴き、曲想をつかむ。 ・アとイの旋律の特徴について感じたことや気付いたことを発表する。 ・旋律の特徴に合った歌い方で歌詞唱したり、4拍子の特徴にあった歌い方を工夫したりする。 			
	⑥	このゆめを	<ul style="list-style-type: none"> ●自分たちの思いや意図を演奏に生かす。 ・グループに分かれ、アとイの特徴を生かした歌い方について、自分たちの思いや意図を話し合う。 ・思いや意図に合った演奏を工夫し、練習する。 			
	⑦		<ul style="list-style-type: none"> ●演奏を互いに聴き合う。 ・グループ毎に発表して、互いの演奏を聴き合う。 ・他のグループの良かったところを発表する。 ・全員で歌唱を楽しむ。 			

8 本時の学習

(1) 目標 曲の特徴を捉えた表現を工夫し、思いや意図をもって歌う

(2) 展開

学習活動	○指導上の留意点	◇評価規準	◆評価方法	要素
1 既習曲を歌う。	○楽しく学習できるような雰囲気づくりをする。			旋律拍
2 指導用 CD の演奏を聴き、曲全体の特徴を感じ取る。	○子供の意見を共有する。			
きょくのかんじのちがいに気をつけて、自分の思いをもって歌おう				
3 アとイの旋律の特徴について気付いたことを発表する。	○前半のリズミカルに弾む感じと後半の滑らかな感じを聴き比べて、児童の発言を基にアとイの旋律の特徴を板書し、クラス全体で共有する。			
4 旋律の特徴に合った歌い方で歌詞唱する。	○楽譜上の音符の位置に合わせて指を動かしながら歌ったり、4拍子の指揮をしながら歌ったりして旋律や拍子の特徴を感じ取り、アとイの歌い方の違いを生かすように助言する。	◇ 曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	◆ 思①発言内容、表情観察、演奏聴取	
5 本時のまとめをする。	○次時への学習への意欲づけを図る。			

(3) 評価及び指導 (手だて)

A (十分満足できる) と判断される具体的な状況	前半のリズミカルに弾む感じと後半の滑らかな感じの特徴を捉えた表現を工夫し、思いや意図をもって歌っている。
B (おおむね満足できる) の状況を実現するための具体的な指導 (手だて)	友達が発表した意見を共有し、曲想の違いを感じ取れるように助言する。また、楽譜上の音符の位置に合わせて指を動かしながら歌ったり、4拍子の指揮をしながら歌ったりして、特徴を感じ取れるように支援する。